令和元年度　いじめ問題解決に向けた子ども会議に参加して（感想）

【小学生】

○　いじめ解決子ども会議を経験し、いじめは人によって、いじめになる、ならないが変わるということが一番心に残りました。学んだこと、「コミュニケーション・ポイント」を学校に伝えて、いじめをなくし、笑顔いっぱいの学校にしたいです。

○　ぼくは、この会議にこうけんできたと思いました。でも、やっぱり中学生や高校生は、しっかりと意見がまとまっていたり、話の中心となって話していたりしてかっこいいと思いました。
　今日の話の例のようなことはないように、「コミュニケーション・ポイント」をきちんと伝えていこうと思いました。

○　それぞれ感じ方の違う友達にわたしたちができることを話し合った時、みんなの考えを聞いて、こんな考えがあるんだと思いました。会議で話し合ったコミュニケーション・ポイントをいつも頭に入れて生活していきたいなと思いました。コミュニケーション・ポイントを多くの人に知ってもらい、みんながよりよく過ごせるようにしたいと思いました。

○　ぼくは、この「いじめ問題解決に向けた子ども会議」で、感じ方の違いはいじめにつながるのか？についてよくわかり、これからにつなげていこうと思いました。そして、このような人に自分たちができることを考えたり、まとめたりして、もっともっといじめの問題を解決する解決策が見つかるような気がしました。このいじめ会議をきっかけにして、全校の人に発表したりして、いじめがなくなったらうれしいと思います。

○　感じ方のちがいがいじめにつながることがよくわかりました。ほかの学校の人と関わることができて、とてもよい経験になりました。
　Ａさんのことについてよく考えられました。コミュニケーション・ポイントを意識して、生活していきたいです。いじめのことを知ったので、みんなにも話し合ったことを伝えたいです。

○　人の感じ方にはちがいがあり、それぞれ言われてうれしい言葉、いやな言葉にもちがいがあることが分かったので、その人に合った言葉を選び、その人を悲しい思いにしないようにしようと思いました。また、そのことがいじめにつながると分かったので、感じ方がびんかんな人と接するときは、気をつけようと思いました。
　Ａさんの話のような例があったので、いじめは身近にあるものだと気付くことができました。

○　人それぞれ感じ方がちがうことを知りました。言った人は言われた人がきずついていないと思っているけれど、言われた人は実はすごくきずついているということもあります。人によって、言われてうれしいことと言われていやだと思う言葉がちがうので、声をかける前に、言われてうれしい言葉かどうか、自分がもしそう言われたらどう思うかなどをよく考えてから言った方がいいということも分かりました。

○　全体の時に意見をあまり言えませんでした。個別(班)の話し合いでは自分の意見を言えました。子ども会議を通して、感じ方の違いはいじめにつながるのでやめていきたいと思いました。また、他の人の意見を聞くことで、他の考えもあるので、話し合いの機会を増やしていきたいです。みんなには絶対いじめはやめてほしいです。

○　私は、この「いじめ問題解決に向けた子ども会議」に出て、とてもよい経験をすることができました。どの学校の代表の人も積極的に発言していました。私も学校の代表として、美土里小を引っ張っていきたいと思います。
　今回の話し合いの内容を学校に広めるだけでなく、もし近くに困っている人がいたら、コミュニケーション・ポイントを使って、感じ方がちがう人でも受け入れられる人になりたいと思いました。

○　私は、今回会議をして、感じ方は人それぞれちがうことが分かりました。そして、感じ方がちがう子にはどう接したらよいかを、ちゃんと考えることができました。感じ方がちがう子には、周りの子が話しやすい環境をつくることが大切です。そのために、周りの子たちが協力することが大事だと学べました。なので、まずは自分から実行し、そこからたくさんの人に広める努力をしたいと思いました。

○　今回の会議で人によって言われて嫌な言葉は人によって違うことが分かり、それと同時にそれを解決し、学校の人たちに伝え、いじめを減らしたいと思いました。
　会議の結果で出たコミュニケーション・ポイントの「友達の気持ちをよく考えよう」「自分も友達も気持ちのよい会話をしよう」「友達のよいところを見つけ、理解しよう」「友達と積極的に関わりを持とう」を自分から意識し、いじめのないようにしたいと思います。

○　伝える側と伝えられる側は、言葉の感じ方が違うことが改めて分かりました。様々な意見が出たけれど、どれもみんな共通点があって、考えることが似ているなと思いました。みんなが手を挙げて発表しているのを見て、みんながいじめについて真剣に考えているのだなと感じました。
　このことを通して、自分も言葉の伝え方には気をつけなければならないと思いました。

○　ぼくは、いじめに関して今までよく分かっていない所があったけど、この会議を通して、いじめはなぜ起こるのか、いじめが起こった時にどう解決すればよいのかなどを知ることができました。また、自分自身も今回の会議でたくさんいじめについて考え、それを発表しようと挙手ができたことが、自分の自信につながりました。この会議で学んだことを、いろいろな人に伝えていって、いつか世の中からいじめがなくなってほしいなと思いました。

○　わたしは、この会議を通して、１つの同じ言葉であっても、人によっていろいろな受け取り方があるということを知りました。だから、友達に言葉をかけるときに、１つ１つの言葉に気をつけたいなと思いました。
　また、グループでの話し合い活動では、初めて会った人たちといろいろな意見を出し合い、自分自身も発言できてよかったなと思いました。

○　普段考えられないようなことを、たくさんの学校の人達が集まって会議し、より深く考えることができたのでよかったです。深く考えたので、「こんなのはだめで、こんな接し方がいいんだな」と分かることが多かったです。新しい発見ができたので、よかったです。一人一人の努力がとても大切であり、ぼくも含めた全校の協力が必要だと分かりました。人それぞれの感じ方のちがいについて、いじめにつながるということが分かったし、いじめはとても悪いことだと知りました。そして、いじめをやらないだけでなく、自分から注意することも大切だと実感しました。
会議では、積極的に手を挙げて意見を交流することができてよかったです。大人も会議をして真剣に考えていることを初めて知りました。たくさんのことを学ぶことができました。また、このような機会があったらぜひ参加したいです。

○　今回の会議では、友達とのコミュニケーション・ポイントを考えたり、高校生の人達と一緒に話し合いができたりして、とても貴重な時間になりました。私たちは、コミュニケーションについて、平井小学校のみんなにも伝えて、平井小学校のいじめがゼロになるようにしていきたいと思います。そして、今回の話し合いのことをずっと忘れず、困っている人を見つけたら、進んで助けたいと思いました。

○　僕は、いじめ問題解決に向けた子ども会議に出てみて、考え方を変えていきたいと思いました。いつも自分の思いこみで勝手に自分からいやな雰囲気を出してしまっていたので、今度から自分は、話を聞いて、もしも自分がいやなことをしていたら、しっかりあやまりたいと思います。それと、もしＡさんみたいな人がいたら、話し方に気をつけながら優しく話して、友達にＡさんのよいところを言ってあげれば、みんなが仲良くなれるのではないかと思いました。
　いじめ解決サポーターとして学校では何ができるのか、もしいじめがおきていたらどうするのかを改めて考えていきたいです。

○　僕はこの会議で学んだことがたくさんありました。今までのぼくは、A さんみたいな子がいたとき、感じ方がちがうということをきちんと考えたことがありませんでした。今回の機会を通して、気持ちを考えて話すことができればよいとわかりました。

　最初はとてもきんちょうしていたけれど自己紹介をして、気が楽になっていきました。周りの学校の人たちは、みんな手を挙げていてすごいなと思いました。ほかの人の意見を聞いて「たしかに」や「ちがうな」と心の中で思ったけど、それをしっかり伝えられなかったのが反省点です。だから、次このような機会があったら、また参加したいです。

○　同じ言葉でも、人の感じ方は違うことが分かりました。これから先、相手のことを考えて話しかけるようにしていきたいと思いました。

○　相手がどう感じるかを考えて話しかけていかないと、いじめにつながってしまうと感じました。いじめは絶対にしてはいけないのだと思いました。

○　相手のことを思うことが大事だと改めて感じました。今後も、全校児童に子ども会議で学んだことを広めていきたいと思いました。これからもいじめ０になるようにみんなで仲良くしていきたいです。

○　今回の子ども会議の問題は「感じ方がちがう子とどう対応するか」でした。私は今まで、そのようなことを深く考えることはありませんでした。この会議で学んだことを生かして、今後そのようなことがあったら、学校で話し合い、解決したいです。

【中学生】

○　今回、初めてこの会議に参加しましたが、とても素晴らしい会議だと感じました。いじめ防止についての案を自分で考えることで考えが深まり、共有することで視野が広がりました。班別会議では小学生の柔軟な発想、中学生の深い考えに驚き、改めて考え方の違いに関して気づかされることが多々ありました。私はこの会議が有意義なものになったと思います。また、いじめ解決サポーターとして学校内で意見の交流の場をつくり、学校全体としていじめ撲滅への意識を高めていきたいです。子ども会議を開いてくださり、本当にありがとうございました。

○　「人の感じ方の違い」ということでカードを使ってそれぞれ思ったことが違うことがわかりました。特に、人によって考え方や気持ちの変化が大きく違うことを改めて知ることができました。いろいろな人の意見を聞いて同情する部分があっていろいろなことに気づくことができました。このことをこれから生徒会本部役員としてしっかりと全校生徒に伝えていかなければならないと感じました。こ

れを伝えるには、全校集会や委員会活動の中で継続して伝える場を設けていきたいと感じました。高校生のリードもあって話しやすく、小学生のすごい発想力にも驚かされました。

○　私はこの子ども会議を通して、「何気ない言葉もいじめにつながる」と危険意識がより高まりました。はじめのアクティビティでは、自分と相手の言われていやな発言が違ったりして意外と身近に危険があると確認できました。また、最後のまとめでは他の班の意見を聞くことができ良い体験でした。北中でもより意識を高めて、いじめを減らしていきたいと思いました。

○　僕は、今回の子ども会議を通して自分は傷つけようとしたわけではないけれど、少しの言葉づかいで相手は傷ついてしまうことがあるのだと知りました。傷つけてしまった側と傷つけられてしまった側の両方の気持ちを考えられ「いじめ」について良く考えることができました。今回の会議で学んだことは今後生かしていき、さらに広めていきたいです。

○　いじめ問題解決に向けた子ども会議に参加して、僕は普通に悪口を言うだけでなく、自分は相手が嫌がることを言っていないのに、相手の捉え方が違うといじめと思ってしまうということが分かりました。Ｂさんは励まそうとしただけなのに、Ａさんはそれを自分への悪口だと思い込んでしまって、泣き出してしまった。こういうことは僕たちの学校生活でも起こってしまうと思いました。こうなった時どうすればいいか話し合って、僕は泣いてしまった理由を聞いて、相談にのるという意見がとてもいいと思いました。この会議で出た友だちとのコミュニケーション・ポイントをまずは自分が実行し学校全体へ広めていきたいと思います。またいじめ防止サポーターとして、いじめのない学校作りをしていきたいです。

○　今回初めていじめ会議に参加して、人によって言葉の捉え方が違うことで小さなことでもいじめにつながってしまうと思いました。同じ言葉でもみんなそれぞれ感じ方が違うので、自分だけが言われてうれしい言葉を使うのではなく、みんなが言われてうれしい言葉を使っていけたらいいなと思いました。
　また人それぞれの個性を認め合いお互いに尊重することが大切だと思いました。これからもみんなの個性や価値観を認め合って、大切にしてきたいです。

○　僕は改めて、人によって感じ方が違うことがわかりました。不安を抱えている人や悲しい気持ちの人を見かけたら、その人の立場になって考えたり、良いところを見つけたりして関わっていきたいと思います。
　この会議で決まった４つのコミュニケーション・ポイントのうち、特に「友達と積極的に関わりをもとう」を意識して行動していこうと考えました。決まった人とずっと一緒にいるのではなく、たくさんの人とコミュニケーションをして関

わりをもち、「明るく」「元気に」「笑顔で」学校生活を送っていきたいです。

○　私は今まで「感じ方の違い」など考えたことがなく、自分の世界観を友達におしつけてしまっていたのではないかと、この話し合いを通して気づくことができました。また、この会議に参加する前までは「いじめなんて起きない」と軽く見ていましたが、この会議で「いじめ」に対して考えを深めることによって、考え方を変えることができました。これからは何気ない一言で友達を傷つけてしまう、いじめを行う当事者になってしまうということを頭に入れ、いじめ防止活動に取り組んでいきたいです。

【高校生】

○　小中学生の意見がたくさん聞けてよかったです。話し合いもスムーズに進めることができることができました。小・中・高それぞれの生徒がいじめについて、しっかり考えられたと思います。

○　小中学生はそれぞれ納得ができるような意見がたくさん出てきて、話し合いのときなどとても助かりました。小中高が協力し合って、いじめに対して考え、解決していくことにとても前向きで、よい話し合いだったと思います。

○　今回の会議で改めていじめはよくないものだと思ったとともに相手の感じ方によっては、自分ではいじめているつもりがなくても、そうとれられてしまうので、難しい問題だと思いました。今回学んだことをしっかり今後の生活に意識していきたいと思いました。

○　今回子ども会議でみんな感じ方が違うことが分かったので、人の関わり方を考えて接していきたいと思います。自分が司会をして、小学生が積極的に手を挙げてくれたので、とても分かりやすかったです。今回会議で学んだことを生かして、これからの生活を頑張っていきたいです。

【引率の先生】

○　代表とはいえ、初めて会う人と話合いをしなければいけないということで、なかなか意見が言い出せない子どもたちでしたが、互いを理解しようと心がけ、自分の役割を見出しながら話合いを活性化させようとする姿が見られました。これこそが、今回の話合いで決まった「コミュニケーション・ポイント」を意識した具体的に活動する姿だと思いました。

　「コミュニケーション・ポイント」については、「もっと簡単な言葉で表した方が…」などと思ったものもありましたが、子どもたちの言葉こそ、子どもたちに浸透するものであると思うので、いじめ防止につながる合い言葉となればいいなと思いました。お世話になりました。

○　事前の打ち合わせで、子ども会議の流れが詳しく説明され、多くの教員で内容の検討・確認ができたのでよかったです。当日も、司会の中学生や高校生を中心に、スムーズに会議が進行し、素晴らしかったです。

「感じ方の違う友達とどう関わるか」についての話し合いで出た意見を、自分たちで整理して、コミュニケーション・ポイントを決めるという流れがとてもよかったと思いました。子どもの実態に即した、子どもの思いがこもったものになったと思います。「自分たちが決めた」という思い入れが子ども達の中にあるので、「コミュニケーション・ポイントを大切にしよう。自分の学校に広めていこう」という思いが子ども達の中に自然と芽生えていたように感じます。

一生懸命考え、他校の児童・生徒と意見を交流させたこと、リーダーの任命証をいただいたことを通してリーダーとしての自信と自覚が育ったように思います。とても有意義な会議でした。大変お世話になりました。

○　今回、引率という立場で参加させていただき、小学生から高校生までの子ども達の真剣な話し合いを間近で見ることができ、私自身とても勉強になりました。

まず、とらえ方（感じ方）の違いで、自分がよかれと思って行った言動でも、受け取り方によってはとても辛いものになるという視点は、改めて私たち教師がもたなければならない視点だと感じました。様々な背景を抱えながら登校してきている子ども達に対し、自分が生まれ育った中で得た「ものさし」だけで子どもを判断したり、声かけをしたりすることは、とてもおろかなことだと思いました。

常に自分自身が学び続け、新たな見方を取り入れる柔軟性をもち続ける努力をしたいです。また、その様な視点を学級経営や学校全体の教育活動にも生かしていく必要性があると感じました。特別活動主任として、今回２名の児童が学んだことを全校の児童に伝える方策を考えたいと思います。また、来年度以降にも引き継げるよう、職員間の連携もしっかりと行っていきたいと思います。

貴重な機会を設けてくださり、ありがとうございました。

○　「それぞれ感じ方の違う友達に、わたしたちができること」というテーマに沿って、中学・高校生を中心に、小学生たちが熱心に考えて意見を出していたので素晴らしかったと思います。今回の内容であれば、各校で会議の報告をするよりも、同様の流れで授業等を行い、実際に当事者の一人として考えていくことが多様性の尊重・いじめ防止につながっていくのではないかと感じました。

○　「いじめをなくすための会議」と「他校と関わる会議」の二つの面から、今回の会議はとても意義の深いものだと感じた。

感じ方のちがいがあることについて、参加した児童にとっても心当たりがあるような場面設定だったようだが、その場面のトラブルが「感じ方のちがい」によるものだと改めて気づけたようである。学校全体に広めることで、いじめの未然防止につながると感じた。

「他校と関わる会議」として、小学生にとっては本当に良い刺激を受けられる場だった。「リーダーとしてこうあるべき」という姿は見られる機会はほとんどないので、中学生だけでなく、高校生も参加するこの会議は、今後も続けてほしい。

○　今回のいじめ問題解決に向けた子ども会議での議題である「感じ方の違いはいじめにつながるのか」は、繊細な部分で難しい問題なので、深く考えられる協議事項だったと思います。子ども達が「それぞれの感じ方の違う友達に、わたしたちができること」は何なのか、一生懸命考えている姿が印象に残りました。

はじめに、自分に置き換えてどの言葉を言われたらうれしいのか、嫌なのか考えたことも後の協議事項とつながっていて大変よかったと思います。

班別協議では最初難しくて何を書いたらよいか迷っている子たちもおり、5班は最後まとめるのに時間ぎりぎりになってしまいました。最後の全体協議ではよい意見がたくさん出てきたので高校生や中学生を中心に系統を分け、キーワードを探していくのでもよいのかなと感じました。特に中学生の中によい意見を述べる子がたくさんいたように思います。

今回話し合ったことを学校に持ち帰り、美九里東小学校の児童たちに伝えたいと思います。

○　今年度も大変お世話になりました。

第１部では、子どもたちがみんな一斉に手を挙げて、自分の意見を発表しようとする様子が見られ、参加していた全ての子どもがやる気に満ちあふれていて、藤岡市の各学校のリーダーとしてふさわしいなと思いました。第２部では、どの班も中学生を中心として、時間を目一杯使い、たくさん意見を書いたり発表したりしていて、子どもたちの真剣な様子が見られました。第３部では、子どもたちが考えた意見をぶつけ合いながら、みんなでよりよいまとめを導き出していこうとする姿勢が見られ、子どもたちの熱い思いが伝わってきました。この会議で本校の児童２名が学んだ事を、具体的にどんな場面でどう生かしていくかについて児童会で話し合わせ、それを学校全体に伝達させたいと考えております。

○　児童にとって貴重な時間になりました。リーダーを担う子ども達が、他の学校の子や中学生、高校生と意見を交流させることで、より深く考え、ものの見方考え方が変わっていくようでした。新しい発見ができたと、目を輝かせながら会議の様子を話してくれました。

参加児童だけの体験に終わらせず、平井小学校の全校で情報を共有し、児童主体の活動によって、いじめゼロに向けて前進していけるように努めていきたいと思います。

○　各学校の代表者の会議は、普段大人数での話合いの機会がなかなかもてない本校児童には、本当に貴重な経験でした。「他校にはこんな小学生がいる」「こんな中学生、高校生になりたい」と思えるこの会議に出席できたことは、児童にとっ

てよい刺激となることと思います。今回は、感じ方が違う子が泣き出すという設定でしたが、感じ方が違うために怒ったり攻撃的な行動に出たりということも考えられます。いろいろな場合が考えられることを頭に入れて、自分も友達も気持ちよく過ごせるように考えさせていきたいです。ここで話し合われたことが全校児童に届き、行動に表れるように、出席した児童と共に考えていきたいと思います。

○　せっかくの機会なので、子どもたちの話し合った内容やその言葉をそのままとめられるとよいと思いました。高校生が特にすばらしかったです。

○　今年度の子ども会議のテーマは、「感じ方の違う友達について考える」であった。感じ方はみんな同じだろう、と思っていた児童が多いと思う。「感じ方の違いがいじめにつながる」ということを学んだことはたいへん大きな意義がある。しかも、子ども会議に参加している児童生徒は各学校のリーダーである。自分の学校に戻り、良い力を発揮してくれることを期待するとともに、全校体制で指導をしていきたい。今年度も、司会進行をしてくれた中学生の態度は立派であり、班別活動では高校生がリーダーシップを発揮してくれた。ともに、小学生にとってはたいへん良い先輩の姿であった。たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

○　今回初めて引率させていただき、子どもたちの考え方や発想の違いについて知ることができました。感じ方が違うのはもちろんのこと、発言や意見を述べる態度も学年によって特徴があり、聞いていて面白いと感じました。発達段階によって異なる感じ方をしているため、学年の異なる子どもたちが一緒に同じ議題について話し合うのはとても良い刺激になったのではないかと感じます。普段何気なく行動している部分であったので、もう一度よく考える機会だったと思います。声をかける側が感じていることと、かけられる側が感じていることが同じであるとは限らないことを頭に入れておくだけでも、他者意識が育つのではないかと感じました。本当にありがとうございました。

○　全体協議「感じ方の違いはいじめにつながるのか」では、生徒たちの４つの言葉の順位づけを見て、自分が発する言葉が良い感じ方をする言葉なのかしっかり考えなければいけないということを改めて実感しました。また、班別協議では、小学校の児童たちのしっかりした考えに驚かされました。多くの児童生徒たちがしっかり想像力を働かせながら考え、協議していたことに感心しました。子供たちが相手の気持ちを想像し、自分事として考え話し合う。そして、自分ができることを見つける。この作業を繰り返し行うことで、居心地の良い安心できる学校、ひいては社会作りを行っていって欲しいと思いました。

○　今回の会議に参加し、小中高の子どもたちが積極的に意見を出し合い、普段経

験できないよい場に参加することができました。また、捉え方の違いについて話し合った場面では、高校生だけでなく、中学生・小学生も具体的に意見を出し合って簡潔にまとめることができていました。グループで話し合った結果を全体で共有する場面では、中学生が積極的に発言したり、「コミュニケーション・ポイント」を決めるときに意見をまとめたりして子どもたちが考えてまとめる形を見ることができました。日頃の活動を振り返り、今回の子ども会議の内容を学校で共有し、これからの生徒会のいじめ防止活動に生かしていきたいと思います。

○　「感じ方の違い」により他者を傷つけてしまうことは、教員と生徒の間にも起こりうることを考えさせられました。また、子どもたちが真剣に意見を交換し、前向きに話し合う様子を見て、子どもたちが持つ可能性を感じました。教員と子どもたちが共通認識のもと、本気で取り組めばいじめを起こさないことも可能だと思います。今回の会議で話し合ったこと、４つのコミュニケーション・ポイントは自校でも活動に取り入れ、いじめのない学校にしていこうと思います。

○　小中学生の積極性にいつも驚かされます。具体的な場面を題材にしていたので、感じ方など難しい内容でしたが、分かりやすかったと思います。高校でも子ども会議の内容を生徒に伝えたいと思います。ありがとうごじました。

○　一人一人の感じ方の違いを知り、その上でどのように友達と普段から接したらよいか、生徒達は考えることができました。また、友達との接し方も具体的に理解することができました。